研修視察レポート

――三郷中学校建替事業を見据えて――

三郷町議会 研修視察

平成27年10月29日・30日

三郷町議会議員
報告者 木谷 慎一郎
公式サイト
http://kitani-shinichiro.jp/

1日目（平成27年10月29日）

三郷町福祉保健センター前で集合、早速出発し、トイレ休憩・昼食を挟みつつバスで石川県へ直行し、午後２時 石川県白山市立 美川中学校に到着しました。

白山市は、平成17年に近隣8市町村が合併して成立しました。合併自治体ということもあり、面積は約754平米となんと**三郷町の85倍（8.5倍ではありません！）**

人口も三郷町の4.84倍と規模が大きく違う市ですが、今回視察した白山市立美山中学校は生徒数は458人と三郷中学校より少し少ない程度の同規模の中学校です。

到着してまず驚いたのが外構です。中学校というより美術館的な広々とした庭です。次の日に視察した羽咋中学校もそうですが、学校と言っても塀で囲まれていることもなく住宅でいうオープン外構になっています。

お出迎えをいただいて、会議室に入りました。説明会では、白山市議会議長が、白山市の概要をご説明くださり、その後、職員さんの案内で建物内の視察をさせていただきました。

壁面の何割が窓になっているんだろうと思うくらい、窓の多い明るい室内、そして、「I」の字ではなく「ロ」の字になっていてぐるっと回遊のできる構造の校舎、中庭にはウッドデッキ的な明るいテラスが用意されていました。

コスト削減のために、内装（の仕上げ）にはお金をかけていない、という説明どおり、コンクリート打ちっ放しの部分が多かったのですが、これはこれでモダンさを感じさせます。

外は薄曇りなのにこの明るさ。開放的です。

家庭科室の特徴は、ガスコンロです。今時は家庭でも学校でもIHコンロが普及し、調理で火を見たことがない子供が多いなかの教育的意義、そして災害停電時の熱源確保のためにあえてガスコンロを採用したとのことでした。

これまた特徴のある視聴覚教室です。学年全体が集まれる大きな階段教室に、プロジェクターを吊るして視聴覚教室にしています。
（写真ではスクリーンが写っていませんが、階段に座って、奥の壁面に吊ったスクリーンを見る形となります）

図書室は司書さんが常駐し、本を通じた教育に力を入れている様子がよくわかりました。
ちなみにこの図書室は、昇降口のすぐ隣に置かれています。この場所にあれば帰りにちょっと寄って借りていこうかな、という生徒も多いそうです。これは本当にいい工夫だと思います。

その後、最後に質疑応答の時間をいただきました。

どのように資金を準備されたのか、設計上意識されたことは何かといった話がありました。
資金については、総事業費約22億8千万円のうち、82％ほどが国庫系の補助を受けることができたことを教えていただきました。
印象的だったのが、設計上意識された点として、同じ市内でも小学校の設計時は外装はレンガ、内装に木を使ったりと温もりを重視した設計とする一方、中学校は学びが本分ということで質実剛健、メンテナンス性も含めた機能性を重視した設計としました、というコメントでした。

少し意外だったのが、美川中学校も、羽咋中学校も、建替の際の工事が生徒の学習・安全に及ぼす影響に非常に配慮が必要だったと異口同音におっしゃっていた点です。この点は三郷中学校においても当然問題となると思われます。
その後、宿へ行き食事をいただき就寝しました。

2日目（平成27年10月30日）

2日目、朝食をいただき早速出発。バスで移動し、羽咋市内へ。

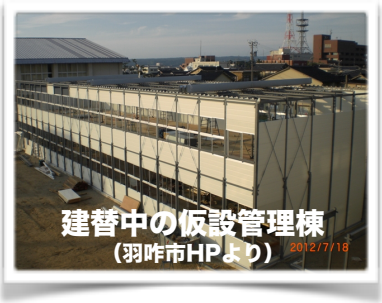
羽咋市は面積が81.96平米と三郷町の9.3倍の広さですが、人口は22641人と三郷町とほぼ同じです。平成の大合併でできた合併自治体ではなく、昭和33年から市制をひいている自治体です。

午前10時に、千里浜なぎさドライブウェイという有名な海岸道路のすぐ近くにある、羽咋中学校に到着しました。

この羽咋中学校もガラス張りの明るい校舎です。昔の中学校のイメージとは全く違います。

会議では挨拶の後、ここでも、市議会議長より羽咋市についてご説明をいただき、その後、建替を担当された職員さんから事業の概要をお聞きしました。

建替費用の総額は37億円。一旦羽咋市内に2つある中学校を一つに統合して新築するという計画がすすんでいたのを白紙撤回して、建替をすることに決まった直後に、東日本震災が発生したそうです。そのため、1日でも早く、安心安全な学校をつくろうを至上命題として、そこから超タイトなスケジュールで進めたそうです。



建替の際は、建設中の教室の確保が問題になりますが、羽咋中学校では校舎のうち、生徒の学習に影響しない部分（体育館と管理棟）だけを取り壊しながら、その場所で新校舎を建てるというユニークな手法を採られたそうです。

~~三郷中学校も敷地に余裕がないため、この問題はかなり検討を要する点になると思います~~（この点については、仮校舎を奈良学園大学内に設けることで解決することとなりました。）

羽咋中学校も、内装外装にはあまりお金をかけずに仕上げるためコンクリート打ちっ放しで、また、いわゆるスケルトン・インフィル（梁と柱以外は耐震性に影響を与えず取り除けるようにすることで、将来の内装の入れ替えを容易にする構造）とすることで、将来的な用途の変更に柔軟に対応できるようにしたそうです。

三郷町には中学校がひとつしかないので用途の変更はあまり心配ないのかもしれませんが、遠い将来も中学校がいまの形態であるとは限らないですから、容易に改築ができる構造、という考え方にはいいヒントが隠されていると思います。

非常用のディーゼル発電機（60kW）

その他、

■「クール・ヒートトレンチ」という、外気を年間通じて温度が安定している地中を通してから建物内に入れることで省エネを目指す仕組み

■「地中熱ヒートポンプ」という、普通のエアコンのように空気からではなく、地中から熱や冷気を取り出す効率の良いエアコン

■「浄水型プール」といって、非常時にプールに貯めてある水を浄化して飲み水にできる仕組みを用意（実際は、飲めるがとてもまずいそうです（笑））

■太陽光発電はもちろん、ディーゼル（軽油）エンジンによる自家発電装置も設置

■照度センサー付きのLED照明

等々、地球環境への配慮と先進的な設備がとても参考になる学校でした。

浄水型プール（体育館2階）

全校生徒が一斉に給食を食べられるランチルーム

クール・ヒートトレンチの省エネ効果をリアルタイム表示するモニタ

中身を見慣れさせることで、いざという時に迷わず操作できるよう、扉が透明になっている消火栓。特注品だそうです。

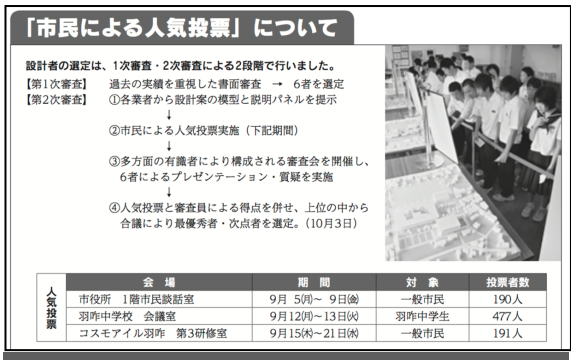
明るくきれいな図書館

この中学校の建設計画の中で特に良いと思ったのは、いくつかの設計案のコンペを中学生や一般の人の投票にかけたという点です。

設計案6者それぞれについて模型と説明パネルを作ってもらい公開し、そのなかから良いと思ったものに投票してもらう形式です。

その後、投票結果を隠して専門家の審議会にも選んでもらったそうですが、結論的には投票での選考と、審議会の選考は同じ結論だったそうです。

それだけみなが納得出来る、すばらしい案が選ばれたのだと思います。



「市民による人気投票」について

設計者の選定は、1次審査・2次審査による2段階で行いました。

【第1次審査】　過去の実績を重視した書面審査　→　6者を選定

【第2次審査】　①各業者から設計案の模型と説明パネルを提示

↓

②市民による人気投票実施（下記期間）

↓

③多方面の有識者により構成される審査会を開催し、6者によるプレゼンテーション・質疑を実施

↓

④人気投票と審査員による得点を併せ、上位の中から合議により最優秀者・次点者を選定。（10月3日）

	会　場	期　間	対　象	投票者数
人気投票	市役所　1階市民談話室	9月 5(月)～ 9日(金)	一般市民	190人
	羽咋中学校　会議室	9月12(月)～13日(火)	羽咋中学生	477人
	コスモアイル羽咋　第3研修室	9月15(木)～21日(水)	一般市民	191人

（羽咋市広報より抜粋）

大きな財源を使う町の一大事業ですから、住民参加をぜひしてもらうべきだと思います。三郷中学校の建替でも導入できるように主張していきたいとおもいます。

羽咋中学校の視察が終わったあとは、昼食・移動で夕方に三郷町役場前に到着しました。

さいごに

三郷町では、三郷中学校の建替工事を平成29年に着工する予定で準備を進めています。

今回視察した中学校が建設された当時からは、建設費がかなり高騰しており、今回視察したものと同じ建物をたてようとすれば、さらに費用がかかります。

しかし、将来を担う子供たちが、安心快適な校舎でのびのびと学ぶことができるよう、ぜひ創意工夫を重ねてよい校舎を作ってほしいと思います。

私も機会をみつけて、今回の視察で得られた知見をもとに意見を発信し、よい校舎づくりに寄与できればと思っています。